集落支援だより

皆さんこんにちは！
地域おこし協力隊 集落支援担当の佐々木です。７月から９月にかけても、奥川にはたくさんの人が訪れ、地域の皆さんとの交流やさまざまな行事を通して、活気あふれる夏となりました。今月号では、その様子をお伝えします。



夏の草刈人足体験 総勢51人が参加！

７月25～26日にかけ、奥川地区で夏の草刈り人足体験が開催されました。今回は、７集落の協力により、福島大学の学生や西会津高校の生徒、東京大学の鈴木寛教授をはじめ経済産業省の職員など総勢51人が参加し、地域内外から幅広い世代やさまざまな立場の皆さんが集まりました。

前日は、福島大学の学生が地域の皆さんと一緒に蕎麦打ちを体験し、打った蕎麦を竹を使って流し蕎麦にして美味しく楽しみました。

人足の当日は、あいにくの天気となり、作業を中断した集落もありましたが、皆さんの協力により無事に作業を終えることが出来ました。



学生の目を通して視た、奥川の魅力。

８月12日～15日にかけ、奥川地域づくり協議会で武蔵野大学の学生を受け入れました。滞在期間中は、芸術村・やまあみ鞄製作所でのワークショップや奥川で収穫されたお米の食べ比べのほか、奥川盆踊り大会に向けて、地域の皆さんと一緒に準備に参加するなど、地域ならではの体験も楽しみました。私自身も、「空気がおいしい！」「星がとてもきれい！」「地域の皆さんが温かく迎えてくれた！」という学生の声を聞き、自然の美しさや人の温かさが心に残る魅力になっていることを改めて感じました。



人が集い、受け継がれる 極入の祭礼

８月18日、極入集落で大聖歓喜天祭礼が開催されました。当日は、地域の皆さんと一緒に福島大学 岩崎ゼミの学生も祭礼の準備や運営を行いました。会場では、蕎麦やイワナの塩焼きも販売され、地域の味を楽しみながら参加者同士で会話するなど、和やかな交流の場となりました。

こうした祭礼を通して、地域の歴史や文化が次の世代へと受け継がれていることを感じました。

500年の歴史に、新しい出会い。

９月13日、出戸集落で岩屋虚空蔵尊祭礼が開催されました。今年もＺＥＮ大学や福島大学 岩崎ゼミの学生など、地域内外から多くの人が参加し、約５００年にわたり地域の皆さんが守ってきた岩屋虚空蔵尊を目指して参道を登りました。

また、学生たちは地域の皆さんから集落の歴史や文化について話を聞き、「おびんずる様」を持ち上げるなど、実際に地域の文化に触れました。長く守られてきた場所に多くの若者が集い、地域の中で大切にされてきたものが、新しい出会いを通して地域の外へ伝わっていく１日となりました。



この夏、多くの人との交流を通して、奥川の日常や風景が、訪れる人にとって新たな魅力になることを改めて感じました。私自身も、奥川で暮らす中で見つけた魅力を大切にしながら、人と人とのつながりを育み、伝えていきたいと思います。